

# 令和5年度 自己評価結果公表シート

錦溪幼稚園

## 1、園の教育目標

- ①子ども達が、「明るく、楽しく、健やかに生活できる」ことを願い、知育・徳育・体育の三本柱による「全人教育」に取り組む。
- ②どの子も『仏の子』として清新な仏教精神を理念とし、「生命の尊重、感謝心、けじめのある態度」を養う。
- ③やさしい心を持って、大きな声で挨拶が言え、お話をしっかり聞ける子に育てていく。

## 2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- ①幼稚園教育要領により、幼稚園の教育課程の内容を再確認し、全教職員で共通理解をはかり、保育を見つめ直す。
- ②教職員が一丸となり教育内容の更なる充実を目指し、教育の質の向上に努める。
- ③多様化する保護者のニーズを把握し、園の中長期ビジョンを確立しその具現化に向けて取り組む。

## 3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取組状況
幼稚園の教育要領の実施において、教職員の共通理解をはかる	新幼稚園教育要領を全教職員がしっかりと理解し、具体的事例を通して共通理解を図っている。また、現場の保育内容に反映できるように、様々な事例に合わせて話し合いを行っている
現状を理解し、中・長期ビジョンを策定する	大きく変化する社会的ニーズや保護者の思いを受け止め、5年後・10年後の幼稚園の目指す方向を模索している。 次年度は、「認定こども園幼稚園型」へ移行する予定である。
教育の質の向上のために、園内研修を行う	専門の講師を招いて、「配慮のいる子への指導」「不適切保育など」様々な課題を設定し研修を行っている。 英語教育教材「サイバードリーム」をバージョンアップし、日々の保育に有効に活用できるよう研修を行っている。 子どもの様子や保育を振り返り、教職員全員で「園児一人ひとりを育てる」という意識を高めるため研鑽を積んでいる。
保護者のニーズの把握と、要望・苦情への対応をはかる	保護者との懇談会やアンケートを実施する中で、出された意見は全職員で共有するようにしている。意見や要望については、職員会議で話し合い、改善すべきことは改善して次年度に反映している。 特に、保護者からの苦情については、真摯に受け止め、誠意を持って対応するように心がけている。
子ども一人ひとりに応じて保育の実践	キンダーカウンセラーや訪問指導者との連携を密にし、個々に応じた指導の在り方を研究し、実践している。特別支援の必要な幼児に対しては、個別の支援計画を作成し指導の深化充実を図るとともに、関係機関（市・民間）との連携も強化している。

子育て支援の充実をはかる	「園庭開放」「ちびっこディ」「1歳児親子教室」「一時預かり」なども実施し、子育ての情報を提供したり未就園児の子育て支援に努めている。また、保護者の先生との交流会も実施。
「あいさつ」の励行	「あいさつ」については、園内の意識にも高まりがみられる。「あいさつ」の励行に向けては、園児にその大切さを事あるごとに伝え、自分から進んであいさつができるよう取り組んでいる。
各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする	研修会に参加し学んだことを、各教員がレポートにまとめ、職員会議等で報告する機会を持ち全教職員で共有し保育に活かしている。
子どものよさを認めて評価しようとしている	一人一人の子どものよさを認め、教師が客観的に子どもを見る目を養うように努めている。気づいたことは、全員で共有するよう努めている。

#### 4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組んでいかなければならない課題を全教職員が共通認識し、その状況を話し合うことにより、本園の方針を具現化でき、実施していくことができた。

コロナウィルス感染症はまだ完全に収束していないため、感染症の広がりを防ぐための工夫を行い園の取り組みを進めている。

#### 5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
指導計画の編成	幼稚園教育要領に基づいた指導計画の作成のために訂正、加筆をさらに加え、園を取り巻く環境や子どもの実態に即した新たな指導計画の編成に取り組んでいく
安全管理、	不審者に対する危機管理マニュアルだけでなく、大規模な自然災害を想定した危機管理マニュアルの見直しを行う。また、全教職員へより一層のマニュアルの徹底理解を図る。 今後より一層訓練内容を充実させ、対応方法や各職員の役割分担を明確にし、不測の災害発生に備える。
自己点検 自己評価	最低限こうしてほしいといった基本の項目を点検課題として挙げているので、各教職員においてはさらに課題を上げるようにして自己研鑽に取り組むようにしている
園に対する保護者の満足度の把握	現在実施している保護者アンケート等を更に充実したものとし、できるだけ多くの意見を聞く機会を設けるようにする。また、懇談会等を通して、直接個々の保護者から声を聞くように努めていく。
教職員の指導力の向上と活性化を図る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児理解に基づく保育実践</li> <li>・ 日々の綿密な保育計画と中・長期計画の作成</li> <li>・ 園内研修、園外研修の実施（子ども理解、保育技術の向上など）</li> <li>・ 毎日の保育日誌を振り返ることで、自己研鑽に努める。</li> <li>・ 他のクラスの保育を見学する機会を、最低学期に1回は持つように設定している</li> <li>・ 子どもの健やかな成長のため保護者対応のあり方を見直し、家庭教育との連携を図る。</li> <li>・ 家庭教育への理解</li> </ul>

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>・ その子のよさの発見（一人一人の子どもに寄り添う）</li><li>・ 幼小の連携 段差の解消 育ちや学びの連続性の発信</li></ul> |
|--|---|

#### 6、学校関係者評価委員会の意見

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 特に指摘すべき事項はなく、経験豊かな教職員のもと安心と充実のカリキュラムで保育が行われている。</li><li>・ 園児、保護者に対して丁寧な対応をしてくれているという保護者の声をよく聞く。</li><li>・ 常に新しい目線で取り組み、保護者の意見にも耳を傾けてくれている。</li><li>・ 今後も子どもたちのことを1番に考え、錦溪幼稚園らしさを大切に教育に取り組んで欲しい。</li><li>・ 子ども達の心に届く保育を心がけて欲しい</li></ul> |
|---|

#### 7、財務状況

公認会計士監査により、適正に園は運営されていると認められている。
----------------------------------